

のんちゃんで行う ターミナルケア

～家族の笑顔に囲まれて～



訪問看護ステーション鈴鹿シルバーケア豊壽園
岩本 麻子



ターミナルケアとは？

死を目前にした人のQOL（生活の質）の向上を目指すケア

残された時間を
充実したものにしよう！



ターミナルケアとは、余命わずかとなった方が、穏やかに過ごすために行われる、医療・看護・介護のことであり、ケアを受ける方が自分らしく過ごせることが何よりも重要となります。

在宅におけるターミナルケアでは、住み慣れた自宅で、死を目前としたご本人とその家族にできる範囲の中で、

「よりよく生きること」を支援し、

「納得と満足のいく最期」を迎えられることが目標となります。わたしは、訪問看護師として働く以前は、総合病院の病棟で働いていました。

急性期の病棟で、何名かの最期に立ち会う機会がありましたが、振り返ると最期を迎える患者様ご本人の思いや、ご家族の思いを聞くこともなく、また、寄り添うこともなく、

業務の一つとして最期のお見送りを行っていたように思います。そのため、数名の最期の立ち会いしか記憶に残っていません、そして、そのどれもが決して良い最期ではなかったように思います。

訪問看護師となって3年。様々な方と出会い、在宅でのターミナルケアや、お看取りをおこなう中で、在宅で最期を迎える方はとても穏やかな表情をしてみえます。また、ご家族もお看取りを行ったあとは、達成感や満足感を得られているように感じます。

在宅でのターミナルケア

「よりよく生きること」を支援



「納得と満足のいく最期」

病院での看取り

業務の
流れの一つ

私の勤務中に
亡くなりませんように…





穏やかな最期を迎えるには??

ご本人とご家族に
納得と満足のいく最期を
迎えてもらうには??

穏やかな最期を迎えてもらうにはどうすればいいのか、ご本人とご家族に納得と満足のいく最期を迎えていただくにはどうすればいいのか、病院ではすることができなかったターミナルケアについて発表させていただきたいと思います。

M様 85歳 女性
胆管癌末期状態
H30年4月7日～ 訪問診療開始
4月9日～ 訪問看護開始

昨年4月胆管癌末期状態のM様の訪問が始まりました。M様の自宅にはひ孫様である2歳ののんちゃんがいきました。のんちゃんはM様が大好きで、わたしたちが訪問している間もM様から離れません。

M様はほぼ会話ができない状態でしたが、のんちゃんにはとてもよく反応してくれていました。



のんちゃん 2歳

ひいおばあ
ちゃんが
大好き!!

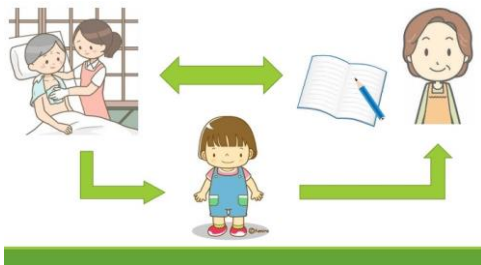


そこで、私たちは、のんちゃんも巻き込んだ訪問看護を行うことにしました。



のんちゃんの役割
 ☆一緒に身体を拭く
 ☆オムツを捨てに行く
 など…

訪問時はのんちゃんにもM様の体を拭いてもらったり、オムツを捨てる役割を任せることにしました。のんちゃんは、まだあまり話はできませんでしたが、とても積極的に関わってくれました。M様ものんちゃんを見ると声をかけたり、わたしたちの声掛けではなかなか開かない目も、のんちゃんの呼びかけで開眼してくれることもありました。



キーパーソンは娘様でしたが、娘様は仕事をしており、わたしたちの訪問時間は不在でしたが、わたしたちの行うケアを、のんちゃんが真似をすることで、伝えてくれていることもありました。もちろん、連絡ノートを作成し、娘様とはノートでやりとりを行いました。こうしてのんちゃんを巻き込んだターミナルケアを行い、余命1週間から10日と言われたM様は1か月自宅で過ごすことができました。亡くなる2日前には「伊勢うどん」が食べたいという訴えがあり、娘さまは無理ですよとあきらめていましたが、風味だけでも感じてもらいましょうと、ほんの少しですが味わっていただくことができました。M様の願いをかなえることができ、娘様はとても満足そうでした。

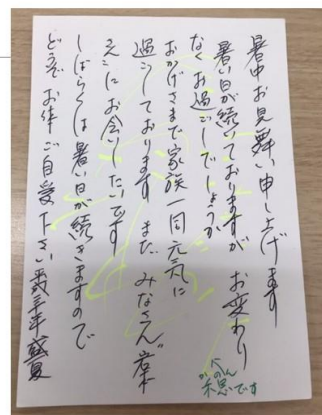
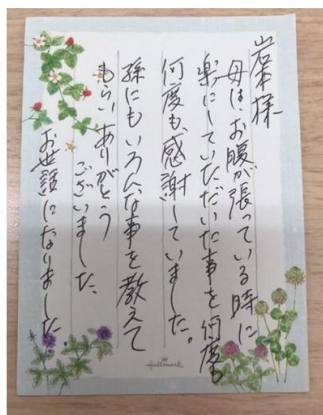
5月10日 AM3:30
 娘様が手を握られている時に静かに呼吸停止
 AM8:05 主治医にて死亡確認
 その時のんちゃんは…

青いおもちゃの聴診器をM様の胸に当て、死亡確認をしてくださいました。



5月10日、娘様が寄り添う中、M様は静かに息を引き取りました。主治医にて死亡確認後、なんと、のんちゃんは、自分の持っていた青いおもちゃの聴診器をM様の胸にあてていたそうです。M様との別れは悲しいものではありませんが、家族が笑顔になった瞬間でした。

～グリーンケア～



亡くなられて1週間が経過した頃、M様のご自宅を訪問させていただきました。グリーンケアと言い、近しい人と死別した人が悲嘆から立ち直る過程を支援する取り組みです。ご家族はM様のお話をしていると涙を流されることもありましたが、自宅で最期を看取ることができてよかったという言葉がきかれました。その表情はとても穏やかで達成感が満ちていたように思います。もちろん、その場にのんちゃんもいたのですが、のんちゃんは葬儀の時にペットボトルのお茶を持ちながら、陰部洗浄のまねをしていたと娘様が笑いながら話をしてくださりました。

ペットボトルで陰部洗浄をすることが当たり前となっており、のんちゃんが真似をすることが想定外で申し訳なく思いつつも、M様が亡くなったあとも、笑顔で過ごされていることに安心することができました。

まとめ

- ・M様が大好きなのんちゃんとケアを行うことで、よりよいM様の反応が得られた。
- ・のんちゃんを通して、早期から家族との信頼関係を築くことができた。

納得と満足のいく最期

亡くなられて1週間が経過した頃、M様のご自宅を訪問させていただきました。グリーンケアと言い、近しい人と死別した人が悲嘆から立ち直る過程を支援する取り組みです。ご家族はM様のお話をしていると涙を流されることもありましたが、自宅で最期を看取ることができてよかったという言葉がきかれました。その表情はとても穏やかで達成感が満ちていたように思います。もちろん、その場にのんちゃんもいたのですが、のんちゃんは葬儀の時にペットボトルのお茶を持ちながら、陰部洗浄のまねをしていたと娘様が笑いながら話をしてくださりました。

ペットボトルで陰部洗浄をすることが当たり前となっており、のんちゃんが真似をすることが想定外で申し訳なく思いつつも、M様が亡くなったあとも、笑顔で過ごされていることに安心することができました。

人を見る



訪問看護は

「人を見る」ことができる仕事だと思います。病院勤務時は「病状」しか見れていなかったことを反省し、ご利用者様がよりよく生きるための支援ができる訪問看護師を目指していきたいと思います。

ご清聴ありがとうございました

